



えんだより

2026年2月3日発行

「創設者に思うこと」

創設者賀川豊彦は元々神戸で活動しており、その意思を引き継いでできたのが「イエス団」(保育園や学童や乳児院など運営しています)。活動拠点は関西を中心に四国も含み組織としてはとても大きいです。関東大震災の時に賀川豊彦は上京してきて墨田区の本所で復興活動を行いました。そして東京でできたのが「雲柱社」です。



当時の高根学園保育

毎年イエス団と合同研修をしており、関西地方と東京とで開催地を交互に行っています。今年は東京でしたが、開催場所は御殿場で行いました。雲柱社の保育園は都内に14園、神奈川の秦野市に1園、そして静岡の御殿場市に1園あります。

その御殿場での賀川豊彦の活動を中心に学びを深めていきました。1930(昭和5)年8月に箱根の旅館で開催されたイエスの友会に、御殿場・御厨(みくりや)の3人の農村青年が参加したことから始まります。当

時火山灰に覆われた高冷地で養蚕業に頼っていた御厨地方の農家が、昭和農業恐慌下の繭価下落で疲弊の極にある窮状を訴え、農村再建・救済方法の指導を懇願しました。賀川はその後の幼児をすべてキャンセルし御殿場に赴きました。その後御殿場に27日間滞在し、青年たちに山間部でも十分に営農・生活が成り立つ立体農業の理論・実践方法や協同組合論などを講義しました。この27日間は「奇跡の27日間」と呼ばれ、住民はもちろん役場の人達の伴走者になり、信用、信頼を得て村全体で立ち上がり、学び、農業恐慌を乗り切り産業を手に入れました。(ハムの加工技術や共同組合の立ち上げなど)農業をしている中の子育ては大変な事から、御殿場に来て11ヵ月で無料で預かる託児所、高根学園が出来ました。(後に高根学園保育所となります)当初は57名来ましたが、2年目から「保育料が無料とは怪しい、あれは耶蘇(キリスト教)に入信させるためのエサだ」との風評が広がった為、改善策として1ヶ月・米一升の保育料を取るようになったそうです。

エピソードはまだまだ書ききれない程ありますが、創設者「賀川豊彦」に思うことは、現代の私たちにとって、「とにかくすごい人」だった事が改めて分かりました。約1ヵ月で人々のところを動かしてしまう行動力と実行力、人脈も魅力です。(アメリカでも有名だったので人脈を駆使して、上記のハム加工の技術を御殿場に滞在していたアメリカ人に指導を受けました)そして何より人を引き付ける魅力、カリスマ性があるのだと思います。雲柱社の事業理念にあるように、私は私なりに賀川豊彦の思想と実践を継承し、バトンを受け取り、次に繋いでいきたいと思いました。



現在の高根学園保育

園長 渋谷順一